

|       |                                  |     |         |      |    |
|-------|----------------------------------|-----|---------|------|----|
| 教 科   | 工業                               | 科目名 | 住環境デザイン | 単位数  | 2  |
| 学 科   | インテリア                            | 学 年 | 2 学年    | 履修区分 | 選択 |
| 使用教科書 | カラーコーディネーター検定試験2級公式テキスト(東京商工会議所) |     |         |      |    |
| 副教材など | 新配色カード(日本色研事業株式会社)               |     |         |      |    |

## 1. 科目の目的

- ・安全で快適な住環境には、寸法計画や人間工学、環境計画だけでなく、インテリアが感覚器官に与える影響を理解することも重要です。感覚器官の中で視覚からの情報は約87%とされており、とりわけ色彩は「快・不快」といった情緒的效果だけでなく識別やアピールなどの機能的効果があり、重要な役割を果たしています。
- ・具体的目標として、高学年で学ぶ専門科目の分野に発展する基礎知識を学び、検定試験等の資格試験のための基礎学力の確立を目指します。関連する資格の主なものを下記に示します。

1)カラーコーディネーター検定試験2級(東京商工会議所)

## 2. 授業の内容と進め方

- ・本校では、講義のみの授業にならないように、教科書を理解させるだけでなく、色彩と配色の実技を取り入れて、各種資格試験の取得にもつながる知識を習得しています。

## 3. 学習する上での留意点

- ・色の持つ様々な働き、基本的用語や概念、日常使われている基本的な色名やその由来、光とは何か、光と様々な色彩現象、混色や色彩心理、色彩調和、ファッション、インテリア、環境を身近な生活と関わりを持たせながら学習します。
- ・翌年度のカラーコーディネーター2級の資格取得を目指して確実に習得できるようにします。

## 4. 課題等について

- ・検定の時期には朝補習を実施して、課題プリントや小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをします。
- ・理解が不足していれば補習および再テストを繰り返します。

## 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

| 評価の観点     | 評 価 規 準                                                                                                                            |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 関心・意欲・態度  | 身近な生活空間にある色のコーディネートに関心を持ち、進んでその色の働きや効果について調べ、得た情報について自分の考えを持ち、伝え合おうとしたか。                                                           |
| 思考・判断・表現  | 色彩(色の本質・体系、色の見え方・感じ方、色の混色、配色)、ファッション、インテリア、環境のコーディネート等の情報の基本的な知識や技術を活用し、思考・判断し、具体的な事象に対して深く考えとともに適切に判断しているか。                       |
| 技 能       | 色彩(色の本質・体系、色の見え方・感じ方、色の混色、配色)、ファッション、インテリア、環境コーディネート等、の基礎的・基本的な技術を、新たな視点から応用発展的に捉え、実際に活用する能力と実践的な態度をもち、デザインや配色として具現化する能力を身につけているか。 |
| 知 識 ・ 理 解 | 色彩(色の本質・体系、色の見え方・感じ方、色の混色、配色)、ファッション、インテリア、環境のコーディネート等に関する基礎・基本的な知識と技術を身につけ、デザインや配色の意義や役割を理解し創意工夫する能力を身につけているか。                    |

## 6. 評価の方法

- 評価については、定期考査・校内実力テストでの成績や課題の提出状況を平常点として加えて、総合的に判断する。
- 1) 定期考査(授業計画にある通り1年間に5回実施される) 定期考査の結果をもとに学習の内容の理解度、定着度を評価する。
  - 2) 校内実力テスト(定期考査を補完する意味で、長期休業明けに校内実力テストが行われる)
  - 3) 「カラーコーディネーター検定試験2級」(東京商工会議所)
  - 4) 授業への取り組み(発表・学習活動への意欲・出席状況) 学習意欲、学習態度、学習に取り組む姿勢を評価する。

## 《指導計画》 科目名 住環境デザイン

2 学年

2 単位

| 学期          | 月  | 学習内容<br>(単元・考査等)                                                        | 学習のねらい                                                                                                                                             | 評価方法等              |
|-------------|----|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 一<br>学<br>期 | 4  | 1. カラーコーディネーションの意義<br>(1) 色彩の情緒性と識別性<br><br>(2) カラーコーディネーションに求められる基本的要素 | 色彩の基本的な機能(情緒性、識別性について理解し、その特性がどのようなものに活用されているかについて学習する<br><br>カラーコーディネーションをおこなう上で考慮すべき要素についての考察とコスト関係を理解する                                         | 行動観察<br>質疑応答       |
|             | 5  | (3) 商業行為における活用と考慮事項                                                     | 商品化のプロセスと色彩計画の効果について学習する                                                                                                                           |                    |
|             | 6  | 2. 色彩の歴史的発展と現状<br>(1) 色彩科学の歴史的展開<br>(2) 近代デザインと色彩<br><br>(3) 民族と色彩      | 色彩科学歴史、光の物理学的・生理学的性質、CI・E表色系の確立について学習する<br><br>19世紀後半からの近代デザインと色彩の関係について学習する<br><br>特有な色彩感覚をもつ民族のカラーコーディネートの重要な手がかりになる民族を象徴する色について歴史、文化、風土を通じて学習する | ノート<br>中間考査<br>課題  |
|             |    | (4) 自然界の色彩的特徴                                                           | 配色のてがかりとなる自然・生物の色彩を整理し、その特徴を学習する                                                                                                                   | ノート<br>期末考査<br>課題  |
|             | 7  | 3. 生活者の視点からの色彩<br>(1) 「色の見え」に影響を与える要因<br><br>(2) 色彩と照明                  | 色の見え方に影響を与えている照明や諸要因、身体要因について学習する<br><br>色を見るために必要な光源の特性、光色、明るさ、演出法について学習する                                                                        | 行動観察<br>質疑応答       |
|             | 9  | (3) 照明による色彩の演出                                                          | 照明の違いにより生じる、ものの見え方を演出に勘案すべき照明要件について学習する                                                                                                            | ノート<br>中間考査<br>課題  |
|             | 10 | (4) 分光分布と色彩知覚                                                           | 光の強さの分布を示す分光分布がどのようにして人間の心理的現象である色彩感覚や知覚を引き起こしているのかを学ぶ                                                                                             |                    |
| 二<br>学<br>期 |    | (5) 色彩の法的規制                                                             | 事故防止や安全確保のための法的規制に色による情報伝達が深く関わっている。どのような目的にどのような色が使用されているか理解する                                                                                    | 行動観察<br>質疑応答<br>課題 |
|             | 11 | 4. 生産者の視点からの色彩<br>(1) 色材の基礎知識<br><br>(2) 色の測定と表示                        | 製品・商品に着色する成分を統括して「色材」と呼ぶ。この「色材」の種類、用途、使用方法を学習する。<br><br>色を生産する立場から、色材の製法や色の管理方法とともに、色を扱うときに問題となる色の差について学習する                                        |                    |
|             | 12 | (3) 色の差の測定と表示<br><br>(4) 流行色                                            | 色を扱う場合に生じる「色の差」について工業的な面から具体的な色差の表示方法に関して学習する<br><br>いかにして流行色がつくられていくのか、生活者側と生産者側それぞれの立場から学習する                                                     | ノート<br>期末考査<br>課題  |
|             | 1  | 5. カラーコーディネーターの視点<br>(1) カラーリサーチの理論と手法<br>(2) カラーコミュニケーション              | 色の調査の対象・目的によって異なる調査方法や、結果を導き出す方法を学習する<br><br>色彩情報を他者に正確に伝える方法やそれぞれの利点・欠点について学習する                                                                   |                    |
|             | 2  | (3) 色の意味と配色<br><br>(4) 色彩調和                                             | 伝達目的に合致した色の選択法や色の普遍的な意味について理解を深める<br><br>古代ギリシャから現代までの色彩調和論を概観し、特にニュートン、ゲーテ、シュヴールの「色彩書の三大古典」について学習する                                               | 行動観察<br>質疑応答<br>課題 |
| 三<br>学<br>期 | 3  | (5) 自動配色の展開手法<br><br>(6) 配色の類型と用語<br>(7) カラーコーディネーションの実例                | 配色変化を求める際に有効な技法である「自動配色」を実例をもとにどのような配色がおこなわれるかを学習する<br><br>配色の類型やその構成要素の特徴を学習する<br><br>実際に目にするファッション、店舗インテリア、インテリアなどを例にあげながら、配色の特徴やその背景にある考え方などを学ぶ | ノート<br>期末考査<br>課題  |